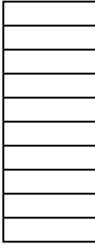
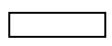
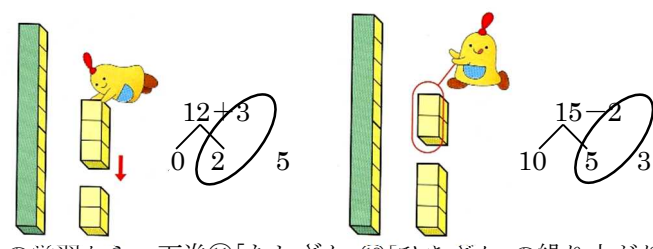


☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。

※「単元のめあて」枠内の漢字に、ルビを振っている箇所があります。ひらがなと漢字のどちらを使うかは、学習進度などを勘案して指導者で判断して下さい。

学年	単元	単元のめあて と 授業のポイント
1年	上巻⑥ いくつ あるかな 同様単元 K7月⑧ T9月⑥	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> もののかずの わかりやすい あらわしかたを かんがえて、 はなそう。 </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 物の個数を、絵や図の大きさをそろえて 種類ごとに均等に並べて表すようにする。このことで、身の回りの事象に関する数の大小関係を、分かりやすく表したり その特徴を読み取ったり できるようにする。 2年上巻①「ひょうとグラフ」に発展する。 <p>【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 p.125 D(1)参照】</p>
	上巻⑦ 10より おおきい かずを かぞえよ う 同様単元 K9月⑨ T9月⑦	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 10より^{おお}大きいかずの かぞえかたや けいさんのしかたを かんがえて、 はなそう。 </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 「10」の導入に関しては、①単元で「0」を理解し、そこから十進位取り記数法に基づく「10」を理解することを提案している。本単元では、「へや」を「くらい」と呼ぶことを知らせ、位取りの図を用いながら、再度十進位取り記数法に基づいて「20」まで構成していく。そのことで、数を単なる記号としてではなく、十進位取り記数法に基づく数として理解することが大切である。 <p>【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 p.80A(1)(オ)参照】</p> <p>【HP 算数教育 情報コーナー「0の導入」参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> 10集まると、まとまりにして「まとまりのへや」(十の位)におく ➡ 数を作る時の決まり(十進位取り記数法)である。 <指導者が知らせること> 「10(じゅう)と1(いち)で、これからは、11(じゅういち)と言いましょ。」 <児童に気付いてほしいこと> 10のまとまりが1こと ばらが10こあるときは、10のまとまりが2こになる。

まとまりのへや	ばらのへや
	
十のくらい	一のくらい
1	1

		<p>・ p.82～83 では、下の図のように ブロックの操作と補助計算が、つながるようにする。</p>  <p>・ この学習から、下巻⑩「たしざん」⑫「ひきざん」の繰り上がり繰り下がりのある学習に発展する。</p>
<p>上巻⑧ なんじ なんじは ん</p> <p>同様单元 K9月⑩ T9月⑧</p>	<p>◎単元のためあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>なんじや なんじはんの とけいでの よみかたや はりのあわせかたを かんがえて、 はなそう</p> </div> <p>◎授業のポイント</p>	<p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時計の短針と長針の役割(何時何分)を知って、何時・何時半までの時刻を読んだり 針を合わせたり できるようにする。この学習は、⑩「なんじなんぷん」の学習に発展する。 ・ 生活の中で、朝7時と夜7時のように、同じ呼び方の時刻が1日に2回あることに 気付くようにする。この気付きが、2年上巻③「時こくと時間」の午前・午後に発展する。
<p>2年</p> <p>上巻⑩ 水のかさ</p> <p>同様单元 K7月⑦ T6月⑥</p>	<p>◎単元のためあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>もののかさの くらべ方・あらわし方・計算のしかたを 考えて、せつめしよう。</p> </div> <p>◎授業のポイント</p>	<p>・ p.122～123 では、「かさの普遍単位」は、かさを誰とでも 比べ合ったり伝え合ったりする場合に 必要になってくる。このような場面を工夫したい。</p> <p>「かさの異なる任意単位」を基にすると かが比べられないことから、単位をそろえる必要性に気付くようにする。このことが、普遍単位につながっていく。そして、大きさを普遍単位で数値化することを「はかる」ということを知らせる。普遍単位は、3年⑩「重さ」・4年⑭「面積」・6年⑩「立体の体積」でも用いられるので、大切である。</p> <p>・ p.124～126・129 では、1dL(児童の生活で実感できる分量)で測定している場合、⑥「長さ(1)」の学習を生かして</p> <p>「もっと大きい(小さい)単位がいる」→「単位 1L(1mL)の導入」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>↑</p> <p><u>児童に考えてほしいこと</u></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑</p> <p><u>知らせること</u></p> </div> </div> <p>・ p.126～128 では、量感を育てる → ペットボトル・水筒のふた等を利用する。</p> <p>・ p.130 では、2L4dL+1L8dL=のような計算では、単位をdLに直したり、単位をそろえたりして計算できるようにする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【単位をdLにそろえて計算する】</p> $\begin{array}{r} 2L4dL \text{ は, } 24dL \\ 1L8dL \text{ は } \underline{18dL} \\ \hline 42 \end{array}$ </div> <div style="text-align: center;"> <p>【同じ単位同士で計算する】</p> $\begin{array}{r} LdL \\ 24 \\ + 18 \\ \hline 42 \end{array}$ </div> </div>

<p>上巻⑩ 三角形と 四角形</p> <p>同様单元 K11月⑫ T9月⑩</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div data-bbox="384 190 1473 304" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>形を なかま分けしたり 作ったり かいいたりして、三角形や四角形の ひみつを見つけ、 せつ明しよう。</p> </div> <p>※形の仲間分け(弁別)の後に、単元のめあて(上に記載)がつかめるようにする。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形学習の段階を踏まえて、児童の意識が つながるような单元構成を考える。 <p>〈図形学習の段階〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の弁別をして、 図形概念を理解する。 ・図形を構成(作図)する。 ・図形の性質を理解する。 ・他の図形との関連を 理解する。 <div data-bbox="384 696 628 1102" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>p.134~135の(6 つの動物が入っ た)図を印刷して、 仲間分けの根拠を 話し合う中で、児 童が自ら 弁別の 観点を取り出すよ うにする。</p> </div>	<div data-bbox="727 450 1473 1460" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【单元構成】</p> <p>(1)形に着目して、秘密を見付けていく。</p> <p>① p.134~136では、形を分けて 三角形や四角形概念を 理解する。</p> <div data-bbox="775 663 1453 779" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>形を なかま分けしたり 作ったり かいいたりして、 三角形や四角形のひみつを見つけて、せつ明しよう。</p> </div> <p>② p.138では、三角形や四角形を描く。</p> <p>③ p.137では、三角形や四角形の性質を調べる。</p> <p>④ p.139では、三角形や四角形を2つに切って、どんな形と どんな形になるかを調べる。</p> <p>(2)角の形に着目して、更に秘密を見付けていく。</p> <p>① p.142~144では、形を分けて、長方形や正方形概念を 理解する。</p> <div data-bbox="775 1115 1262 1267" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>直角の有無による分類 直角の数に着目した分類 長方形や正方形概念の理解</p> </div> <p>② p.144では、長方形や正方形を描く。</p> <p>③ p.142~144では、長方形や正方形の性質を調べる。</p> <p>④ p.145では、長方形や正方形からできる形(直角三角形)につ いて調べる。</p> </div>
<p>3年</p>	<p>上巻⑦ 円と球</p> <p>同様单元 K10月⑪ T11月⑫</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div data-bbox="403 1644 1442 1711" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まるい形を かいいたりおったりして ひみつを見つけ、せつ明しよう。</p> </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.102~104の円の作図では、すぐにコンパスを使って円を描くのではなく、その前に輪投げを しての長さと同じにしていく等の数学的活動とか、さらには、ものさしや棒・ひもなど を使って円を描く活動とかを通して、円・円の中心・半径の意味を理解し、説明できるようにする。 ・ p.107の模様作りでは、円の中心を決めるのが難しいので 図形の一部から図形の全体を想定 して円の中心を決め 児童が自ら作図できるようにすることが、大切である。

◎単元のめあて(板書例)

まるい形を なか間^ま分けしたり 切ったり はか^{きゆう}ったりして、球のひみつを見つけ、せつ明しよう。

*「まるい形」の仲間分け(弁別)の後に、単元のめあて(上に記載)がつかめるようにする。

◎授業のポイント

- ・1年では、立体を「形を全体的に捉える見方」と「機能的な性質への着目」の2つの観点から学習し、「箱の形」「筒の形」「ボールの形」に付いて、理解の定着や弁別の状況を確認し不十分なら十分に復習しておく。つぎに、「ボールの形」と捉えた立体を「球」と「卵のような丸い形」に弁別する学習に進み立体への理解を深めていく。

【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編1年 p.88~89B(1)ア(ア)3年 p.161~162B(1)ア(ウ)参照】

- ・[まるい形の弁別と単元のめあて] p.112
ドッジボールや卵などを真横や真上から観察する活動を通して、「どこから見ても円に見える形」があることに気づき、これを球ということを知るようにする。なお、卵は丸い形ではあるが、円に見えない場合があることで、球との違いに気付くようにする。
- ・[性質] p.112
模型の球を切ることで、切り口は常に円になることや半分に切った場合の切り口が最大になることに気付くようにする。
- ・[構成要素] p.113
球の中心・半径・直径の意味を知り、測定に用いられるようにする。

上巻⑧
あまりのあるわり算

同様単元
K9月⑨
T9月⑧

◎単元のめあて(板書例)

わり切れない わり算の意味や わり算のしかたを考えて、せつ明しよう。

※割り切れない場合の余りを出す指導(下に記載)の後に、単元のめあて(上に記載)がつかめるようにする。

◎授業のポイント

- ・p.118~120の割り切れないときの余りを出す指導

【問題】ゼリーが12こあります。1人に3こずつ分けると何人に分けられますか。

C $12(\text{こ}) \div 3(\text{こ}) = 4$ 4人に分けられます。

T 4人に分けられるとき、これを「わり切れる」と言いましょう。

ここで、わられる数を1こ増やすと、 $13(\text{こ}) \div 3(\text{こ})$ となって、「わり切れない」ですね。どうなりますか。

C $3(\text{こ}) \times 4 = 12(\text{こ})$ だから、 $13(\text{こ}) - 12(\text{こ}) = 1(\text{こ})$ で、1こ残ります。

T 残り1こを、「あまり1こ」と言いましょう。


※ $12(\text{こ}) \div 3$ のときは、同様に指導する。

- ・p.121では、余りの補助計算を右の図のように式の下に書くと、分かりやすい。この補助計算をしておくと、わられる数・わる数・商・余りの関係が理解しやすくなる。

4年の「わり算の筆算に発展するので、十分習熟を図っておくようにする。

- ・p.121~122では、わり算の余りがわる数より小さくなるように、割り進むようにする。

$$\begin{array}{r} 23 \div 4 = 5 \text{あまり} 3 \\ \underline{-20} \\ 3 \end{array}$$

		<ul style="list-style-type: none"> ・ p.123 では、「$26 \div 8 = 3$あまり2」について、「$8 \times 3 + 2 = 26$」のように 答えの確かめができるようにする。その際、「$26 \div 3 = 2$あまり10」のままで確かめに入る間違いが見かけられる。「$26 \div 8 = 3$あまり2」のように、余りがわる数より小さくなってから 答えの確かめをする。 ・ p.126 のわり算の筆算は、3年では発展目標として扱い、4年では到達目標として扱う。 ・ p.124 では、長椅子に座ったりドッジボールを運んだりする数学的活動を通して、余りのある場面には、答えが「(商)+1」になる場合と 答えが「(商)」になる場合があることを理解して、説明できるようにする。 <p>【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 p.147 A(4)ア(ア)参照】</p>
4年	<p>上巻⑨ 垂直・ 平行と 四角形</p> <p>同様単元 K6月⑤ T11月⑨</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 直線の交わり方を調べたり かいったり なかま分けをしたりして、図形のとくちょうを考え、 <small>せつ</small>説明しよう。 </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム感覚の問題で、垂直と平行の学習を楽しく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> まず、<small>さんごみき</small>珊瑚岬と<small>みきき</small>オーク岬通る直線を引きなさい。その直線をAとします。(直線A) 次にどくろ岩を<small>さんごみき</small>珊瑚岬を<small>みきき</small>オーク岬通って直線Aに平行な直線をかきなさい。(直線B) 最後に<small>さんごみき</small>珊瑚岬を<small>みきき</small>オーク岬通って直線Aに垂直な直線をかきなさい。(直線C) 3本の直線が交わったところが<small>ひほう</small>秘宝の<small>ねむ</small>眠る<small>どうくつ</small>洞窟です。 </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.114～115 では、垂直は、2つの直線の交わり方を表しているの、角の大きさの意味で用いないようにする。 ・ p.112～113 では、平行な辺の数に着目して四角形の仲間分けをしたら、児童が学習計画(どの四角形から学習するか)を立てられるようにする。 図形学習の段階を踏まえて、児童の意識がつながるような単元構成を考える。 <図形学習の段階> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図形を弁別し、図形の内容を理解する。(本単元では平行な辺の組の数で弁別。) ・ 図形を構成(作図)する。 ・ 図形の性質を理解する。 ・ 他の図形との関連を理解する。(本単元では、対角線の交わり方に着目して)
	<p>倍の計算 (2)</p> <p>同様単元 K10月⑨ T9月 倍の見方</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> もとにする大きさがちがうときの くらべ方を考えて、<small>せつ</small>説明しよう。 </div> <p>※基準にする大きさが異なるときは 差では比べられないことに気付いて、単元のめあて(上に記載)がつかめるようにする。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基にする大きさを 整数倍して比べる数量を求めたり、逆に、比べる大きさを 整数で割って基にする大きさを求めたり、できるようにする。 ・ 比べる大きさが 基にする大きさの何倍に当たるかを表すとき、倍を表す数で比べられることを理解して、説明できるようにする。この倍を表す数を 割合ということを知らせる。

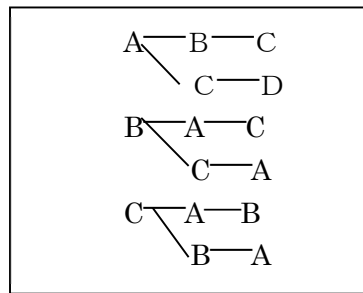
		<ul style="list-style-type: none"> ・小数を用いた「倍の意味」の捉え直しは、倍の計算(3)で学習する。 <p>【小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説算数編 p. 190～191A(4)ア(ア), (5)参照】</p> <p>【HP「倍の意味」の捉え直しによる 4 年「小数を用いた倍」から 5 年「×小数」・「÷小数」への指導 参照】</p>
5 年	<p>上巻⑨ 図形の角</p> <p>同様単元 K6 月⑦ T9 月⑦</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>三角形や四角形の角の性質を見つけ、直線で囲まれている図形の角の求め方を考えて、説明しよう。</p> </div> <p>◎授業のポイント</p> <p>数学的活動を通して、内角の和が 180° になることを理解し、説明できるようにする。</p> <p>$180^\circ - 140^\circ = 40^\circ$</p> <p>$180^\circ - (80^\circ + 40^\circ) = 60^\circ$</p> <div style="text-align: center;"> <p style="text-align: center;">書き入れておく</p> <p style="text-align: center;">80°</p> </div> <p>・ p. 136～139 では、四角形・五角形・六角形についても、図形を三角形に分割して考えれば、「三角形の内角の和は 180° になる」ことを用いて 図形の内角の和が求められることを理解し、説明できるようにする。</p>
	<p>上巻⑩ 単分量 あたりの 大きさ (2)</p> <p>K11 月⑫ T11 月⑫</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>単分量あたりの考えを使って 速さの比べ方や表し方を考え、説明しよう。</p> </div> <p>※5年⑥「単分量あたりの大きさ(1)」で学習した「単分量あたり」の考えを想起し、単元のめあて(上に記載)がつかめるようにする。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下のような手順で、丁寧に指導する。 <p>① p.145～147 では、5 年⑥「単分量あたりの大きさ(1)」で学習した「単分量あたり」の考えで、1 m 当たりにかかる時間と 1 秒当りに進む道のりの 2 種類の比べ方があることを理解し、説明できるようにする。</p> <p>② p.147～148 では、単位時間に進む道のりで、時速・分速・秒速について理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.151～152 では、単分量あたりの考えを基にして、目的に応じ 道のり・時間・単位時間あたりの大きさ(仕事の速さ)の求め方を理解し、説明できるようにする。
6 年	<p>上巻⑦ ならべ方 と 組み合わせ方</p> <p>K6 月⑥ T12 月⑫</p>	<p>単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>並べたり組み合わせたりする場合の数を調べる時、落ちや重なりがないように 順序よく整理する方法を考えて、説明しよう。</p> </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.107～110 の並べ方の問題では 3 人のリレーの走る順番などを取り上げ、p.111～113 の組み合わせの問題では バスケットボールの試合をするチームの組み合わせ方などを取り上げて、目的に合わせて落ちや重なりがないように 順序よく場合の数を調べていくようにする。 <p>並べ方と組み合わせ方で、表や樹形図のどちらが分かりやすいかを 児童が自ら調べていくようにする。</p>

【並べ方】

▲・・・表は、同じことを繰り返し書く必要があるため 順序よく書き並べにくいので 理解しにくい。

○・・・樹形図は、繰り返しがなく 順序よく書き並べられるので 理解しやすい。

A	B	C
A	C	B
B	A	C
B	C	A
C	A	B
C	B	A

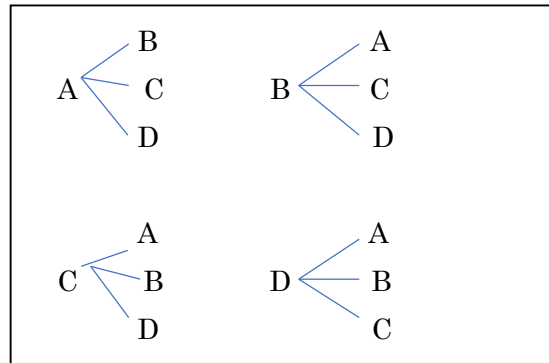


【組み合わせ方】

○・・・表は、「A—B」「B—A」のような重なりを 取り除きやすい。

▲・・・樹形図は、落ちなく書き出すのに手間取り 重なりを取り除くことが難しい。

	A	B	C	D
A		○	○	○
B	×		○	○
C	×	×		○
D	×	×	×	



上巻⑧
小数と
分数の
計算

◎単元のみあて(板書例)

小数や分数を使った計算のしかたを考えて、説明しよう。

同様単元
K5月④
6月⑤
T5月③
6月④

◎授業のポイント

・p.117～119の分数と小数の混じった計算では、小数は必ず分数に変換することができるが、分数は必ずしも変換できない。そのことを踏まえて、どちらに合わせて計算すればよいかを問題ごとに判断できるようにする。

上巻
倍の計算
同様単元
K5月④
6月⑤
T5月③
6月④

・5年では、小数を用いて 比較する大きさ・割合・基にする大きさを求めてきた。
・6年では、計算の意味はそのまま 分数を用いて計算の範囲を広げていく。

〈HP 算数授業のみあてとポイント参照〉

【学校図書5年⑦「小数のかけ算」⑧「小数のわり算」】

【学校図書6年④「分数×分数」⑤「分数÷分数」】

上巻⑨
円の面積

同様単元
K9月⑦
T9月⑧

◎単元のめあて(板書例)

・円の面積を求める公式や 円を用いた図形の面積の求め方を考えて、説明しよう。

◎授業のポイント

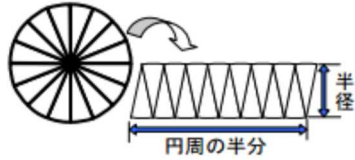
- ・ p. 128～132 では、既習の図形の面積を求める「辺の長さを用いた公式」に帰着して、円の面積を求める公式を考えることが大切である
- ・ 作業的な数学的活動を通して、多様な思考力が養えるようにする。

①平行四辺形の面積をもとに

$$\frac{\text{底辺}}{\text{円周の半分}} \times \frac{\text{高さ}}{\text{半径}}$$

$$= \frac{\text{半径} \times 2 \times \text{円周率} \div 2 \times \text{半径}}{\text{円周の半分}}$$

$$= \text{半径} \times \text{半径} \times \text{円周率}$$



②台形の面積をもとに

$$\frac{(\text{上底} + \text{下底}) \times \text{高さ} \div 2}{\text{円周} \quad \text{半径}}$$

$$= \frac{\text{半径} \times 2 \times \text{円周率} \times \text{半径} \div 2}{\text{円周}}$$

$$= \text{半径} \times \text{半径} \times \text{円周率}$$



※偶数等分の場合は① 奇数の場合は②になる。しかし、等分を細かくしていけば、①も②も長方形に近づく。

③三角形の面積をもとに(1)

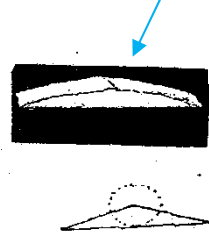
底辺が円周・高さが半径の三角形

$$\frac{\text{底辺}}{\text{円周}} \times \frac{\text{高さ}}{\text{半径}} \div 2$$

$$= \frac{\text{半径} \times 2 \times \text{円周率} \times \text{半径} \div 2}{\text{円周}}$$

$$= \text{半径} \times \text{半径} \times \text{円周率}$$

トイレットペーパーを切って
霧吹きして固めたもの



粘土をひも状にしたものを巻いて
円の形にしたものを半径で切って
広げる方法もある。

④三角形の面積をもとに(2)

$$\frac{\text{底辺}}{\text{円周} \div \square} \times \frac{\text{高さ}}{\text{半径} \times \square} \div 2$$

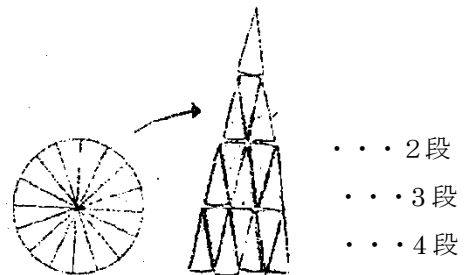
□は段の数

$$= \text{円周} \times \text{半径} \div 2$$

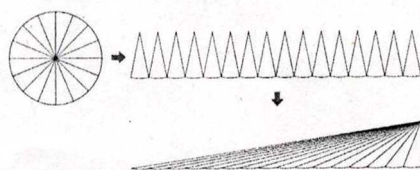
$$= \text{半径} \times 2 \times \text{円周率} \times \text{半径} \div 2$$

$$= \text{半径} \times \text{半径} \times \text{円周率}$$

④の方法は 4 等分, 9 等分, 16 等分... 等分でしか
(2 段) (3 段) (4 段) ...
成り立たないので注意



⑤三角形の面積をもとに(3)



$$\begin{aligned} & \frac{\text{底辺} \times \text{高さ} \div 2}{\text{円周} \quad \text{半径}} \\ & = \frac{\text{直径} \times \text{円周率} \times \text{半径} \div 2}{\text{円周}} \\ & = \text{半径} \times 2 \times \text{円周率} \times \text{半径} \div 2 \\ & = \text{半径} \times \text{半径} \times \text{円周率} \end{aligned}$$

・円の面積を求める公式「半径×半径×円周率」が、半径を一辺とする正方形の面積の円周率倍(3.14倍)と捉えることも、多面的な思考力を養う上で大切である。

【小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説算数編 p.297B(3)参照】

◎単元のめあて(板書例)

・およその面積の求め方を考えて、説明しよう。

・ p.137～138 の「およその面積」は、およその形をとらえたり、実測したりする数学的活動を通して算数のよさが感じられるようにする。

(例)校庭, 自分たちの街

・およそどんな形と見たり, およその面積を考えたりすることを大切にする。

同様単元
K1 月⑬
T10 月⑩

<お知らせと お願い>

「算数教育ネットワーク岡山」で HP を検索して, 毎月の「算数授業のめあてとポイント」や

「算数教育 情報コーナー」等をご覧いただき, 日々の実践に役立てて下さい。

なお, これらについての ご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は seiden_atmark_po.harenet.ne.jp まで Mail でお知らせ下さい。(_atmark_ を@に直して下さい。)